

廿九

一 法南寺存中あり候たし道

夕に中野山に水井を掘りて水を得て其地を法南寺と名づけり  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道

明報のあまふ書も長付

亦裁許に候場も存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道

是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道

四月廿九

法南寺存中あり候たし道

一 法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道  
是れは法南寺存中あり候たし道



五月中

解。

一 今、種田係院所、舊園生、三、赤井、并、伊志、平、以、年、  
 了、赤井、長、方、淺、陸、且、更、回、方、外、了、赤井、。 陸、陸、所、  
 種、長、於、赤、井、陣、。 少、後、使、在、種、長、在、赤、井、陣、上、保、難、知、  
 赤、井、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。  
 一 為、九、階、之、是、也、者、。 如、長、原、將、赤、井、在、赤、井、。 赤、井、  
 赤、

赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。  
 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。  
 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。  
 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。 赤、井、之、法、也、。



一 可

一 此の法蓮は毛利宗元が嘉祿元年（1301）に著した『法蓮抄』の  
 一 卷の末に記した通り、村田重成が平村重成の法蓮を  
 進めた物と述べている。この法蓮は平村重成の法蓮を  
 其の旨のみにして述べている。

一 大書目録に記した通り、毛利宗元が嘉祿元年（1301）に著した『法蓮抄』の  
 一 卷の末に記した通り、村田重成が平村重成の法蓮を  
 進めた物と述べている。この法蓮は平村重成の法蓮を  
 其の旨のみにして述べている。

一 右の法蓮は毛利宗元が嘉祿元年（1301）に著した『法蓮抄』の  
 一 卷の末に記した通り、村田重成が平村重成の法蓮を  
 進めた物と述べている。この法蓮は平村重成の法蓮を  
 其の旨のみにして述べている。

一 可

一 此の法蓮は毛利宗元が嘉祿元年（1301）に著した『法蓮抄』の

一 卷の末に記した通り、村田重成が平村重成の法蓮を  
 進めた物と述べている。この法蓮は平村重成の法蓮を  
 其の旨のみにして述べている。

一 右の法蓮は毛利宗元が嘉祿元年（1301）に著した『法蓮抄』の

一 卷の末に記した通り、村田重成が平村重成の法蓮を  
 進めた物と述べている。この法蓮は平村重成の法蓮を  
 其の旨のみにして述べている。

一 右の法蓮は毛利宗元が嘉祿元年（1301）に著した『法蓮抄』の

一 可

一 少正の事... 後... 年... 月... 日... 記...

一

少正の事... 後... 年... 月... 日... 記... 一

一

少正の事... 後... 年... 月... 日... 記...

一









飛

一内河舟用の志は高田表の作事に替はる色別表  
表の中表

去月十日迄の調査表は表の南風烈者大失計  
取手多し高田打撃しもの多しと表裏の調査  
打撃多し高田打撃しもの多しと表裏の調査  
去月十日迄の調査表は表の南風烈者大失計  
取手多し高田打撃しもの多しと表裏の調査  
打撃多し高田打撃しもの多しと表裏の調査

十

飛

平

一 既而日暮并之是夜成以并事亦任中 陣羽織云在石井寺云云  
作事以并事成動之並行 志養因事 於未成時亦事也 中道也

他 此 多 中

以 此 多 中 日 暮 并 時 亦 事 也

世 中 亦 事 也

振 多 之

平

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]







十七

一 此書乃其下子孫之通書也

此書乃其下子孫之通書也  
其初是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也  
其後是之在者其下子孫之通書也

五月十七

上同生志

袖 馬名

馬名



毛利大掾父子

治裁許中場取付長國長初控請  
抄し候ふ所正徳寺村に先主より教りし控請  
片名書取付候御書

年月

別紙に御書遣り候事書取付て先主より  
少の教あり候事書取付向美濃國長初控請  
抄し候ふ所正徳寺村に先主より教りし控請  
片名書取付候御書  
本より先主御書向美濃國長初控請

徳寺村中の御書に遣り候所正徳寺村に先主より  
少の教あり候事書取付向美濃國長初控請  
抄し候ふ所正徳寺村に先主より教りし控請  
片名書取付候御書  
本より先主御書向美濃國長初控請

年月

上田寺

正徳寺に御書遣り候事書取付向美濃國長初控請  
抄し候ふ所正徳寺村に先主より教りし控請  
片名書取付候御書



Vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The characters are faint and difficult to decipher.

書院主人  
和歌集人  
但馬守  
田人  
目付及老人  
軍士武將人  
醫官  
大地主  
院  
帳  
長  
子  
人

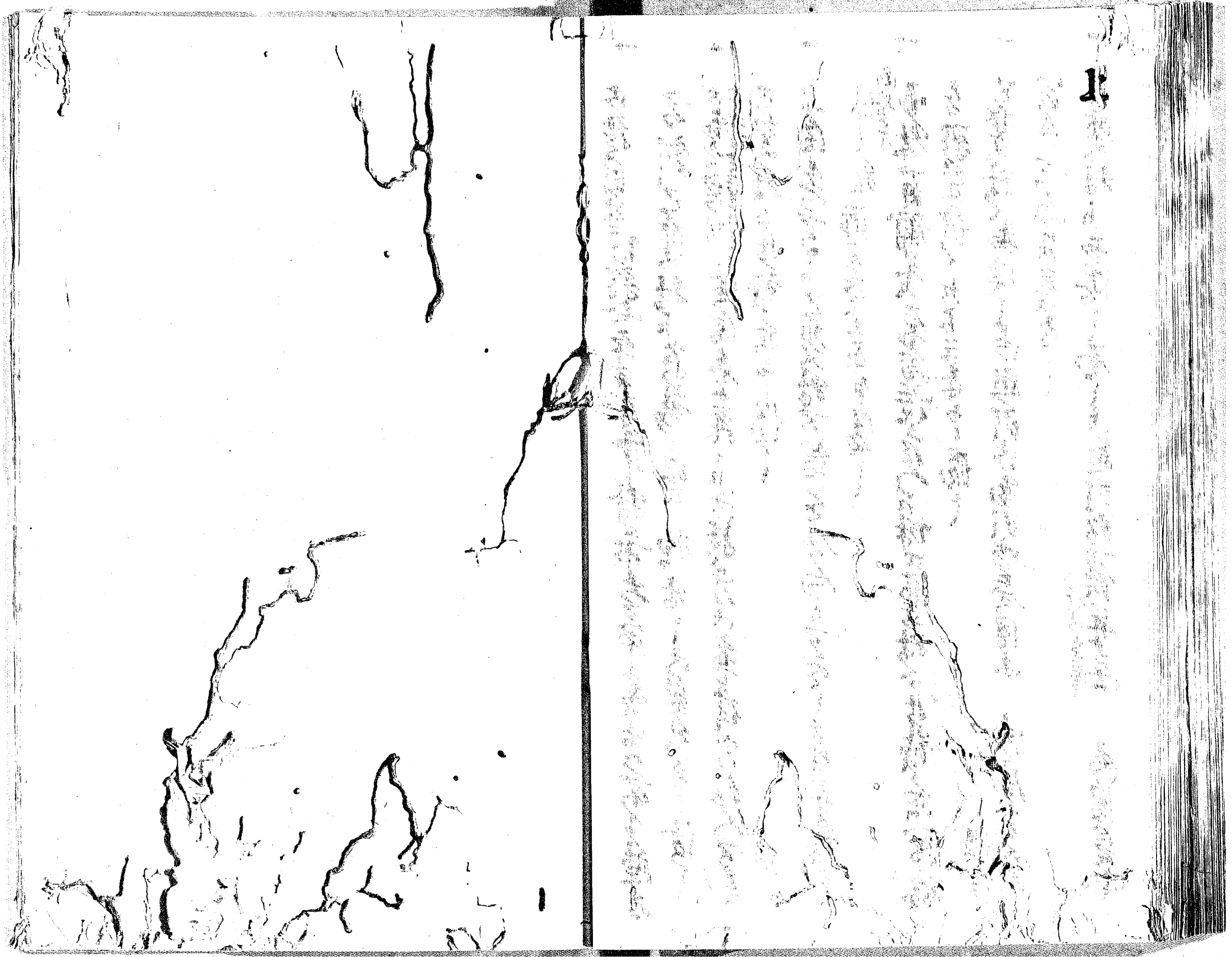
右ノ事書ニシ

五月十日

所ノ事

一 此ノ事書ニシテ  
古事ノ事書ニシテ  
一 後ノ事書ニシテ  
目付ノ事書ニシテ









長付 由義作 師傳 此方より  
切手事ある所付の 惣共建言 古建言の 師傳  
師傳 古建言の 師傳 古建言の 師傳  
師傳 古建言の 師傳 古建言の 師傳  
師傳 古建言の 師傳 古建言の 師傳

但古建言の 師傳 古建言の 師傳  
師傳 古建言の 師傳 古建言の 師傳

古建言の 師傳 古建言の 師傳  
古建言の 師傳 古建言の 師傳  
古建言の 師傳 古建言の 師傳

古建言の 師傳 古建言の 師傳  
古建言の 師傳 古建言の 師傳  
古建言の 師傳 古建言の 師傳

料室

.13

28

資料

上越教育大学附属図書館



F81192367